

# 環境会計

荒川化学グループでは、総合的効果対比型環境会計をツールとして、環境にかかるコスト、効果、物量を把握、管理していきます。2010年度は、緑地の整備に注力しました。

## 2010年度実績集計結果

- (1) 2010年度の投資額は1億53百万円で、2009年度より増加しています。主な環境投資としては、ボイラー更新、排水処理施設、排気設備など環境関連設備の保全の強化および緑地の整備です。
- (2) 環境保全コストの費用は11億27百万円で、2009年度より増加しています。金額順では、環境配慮製品の研究

開発費用、産業廃棄物の削減、減量、リサイクルや処理に関わる費用、公害防止設備に関わる費用などです。

- (3) 環境保全効果では、CO<sub>2</sub>、環境負荷物質排出量は前年並みでした。廃棄物のリサイクルで、富士工場が成果を上げたことにより、埋立量が減少しました。
- (4) 経済効果は、リサイクルによる収入が増加し廃棄物処理費が減少しましたが、エネルギー使用額は増加しており、全体では前年並みでした。

### ■環境保全コスト

(単位：百万円)

分 類	主な取り組みの内容	2009年度		2010年度		関連頁
		投資額	費用額	投資額	費用額	
事業エリア内コスト		69	573	131	597	
①公害防止コスト	公害防止設備の導入・維持管理	57	294	106	279	P.13,14
②地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	5	36	19	67	P.13,14
③資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理	7	243	6	251	P.15
上下流コスト	包装容器のリサイクル	19	103	0	125	—
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持	0	47	6	45	P.8
研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発	0	217	0	332	P.11,12
社会活動コスト	地域における環境保全活動	0	21	16	23	P.26
環境損傷コスト	大気汚染負荷量賦課金	0	3	0	5	—
合 計		88	964	153	1,127	—

### ■環境保全効果

効果の内容および 効果を表す指標	環境負荷量		2009年度比 環境負荷増減量
	2009年度	2010年度	
SOx排出量(t)	12.8	11.2	-1.6
NOx排出量(t)	25.7	23.9	-1.8
水使用量(千m <sup>3</sup> )	1,385	1,413	28
COD量(t)	18.5	18.8	0.3
SS量(t)	7.1	7.6	0.5
CO <sub>2</sub> 排出量(t)	52,516	54,022	1,506
有価物の売却量(t)	2,548	2,719	171
廃棄物排出量(t)	5,668	5,733	65
廃棄物埋立量(t)	373	302	-71

### ■環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位：百万円)

効果の内容	金 額	
	2009年度	2010年度
廃棄物のリサイクルによる事業収入	32.3	45.7
省エネルギーによるエネルギー費の削減	29.4	-13.5
省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	-3.4	25.0
合 計	58.3	57.2

### 集計について

- (1) 集計期間：2010年4月1日から2011年3月31日まで
- (2) 集計範囲：荒川化学工業株式会社、パルノックス株式会社、高圧化学工業株式会社
- (3) 集計参考：環境省「環境会計ガイドライン2005年版」及び(社)日本化学工業協会 日本レスポンシブル・ケア協議会「化学企業のための環境会計ガイドライン」を参考にしました。
- (4) 集計の考え方
  - ・減価償却費は財務会計上の金額。
  - ・投資金額は集計期間の検収ベース金額。
  - ・環境保全活動以外の内容を含んでいる投資・費用は、環境保全に関わる割合を適切に按分して算出。
  - ・研究開発コストは、個々の研究テーマ毎に環境保全係数を決め、環境配慮型製品の研究開発に費やした研究開発時間をベースに算出。
  - ・効果は物量および金額で集計しました。「みなし効果」「偶発的効果」は算定していません。